

わが国のウォーターフロントにおける水面夜景の演出に関する研究

—(その1) 明治から昭和にみる浮世絵版画を対象として—

A Study on the Nightscape on the Water Surface in Waterfront

(Part1) Focused on the UKIYO E that was drawn from Meiji to Showa

○稲葉諒介¹, 横内憲久², 岡田智秀², 大塚雄太³, 島根亘³* Ryosuke Inaba¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada²,Otsuka yuta³, Koh Shimane³

Abstract: This study purpose is to clarify the structural attractiveness of nightscape that is reflected on the water surface in waterfront. This paper analyzed the UKIYO E masterpiece drawn by Kiyochika Kobayashi and Hasui Kawase. This paper clarified about below. (1)The characteristic of the elements reflected on that water surface1, (2)The relationship between elements.

1. はじめに—わが国の都市部に位置するウォーターフロントでは、高層マンション建設とともに集客性を必要とする商業開発が各地で進められている。この集客性という点において、ウォーターフロントは片側半分が水面であるために商圏は陸域の半分となるが、その広大な水面の価値は都市内ではみられない非日常感や開放感などを有している。特に夜間において商業施設の光が水面に映し出されている様相(水面夜景)は、内陸では体感しがたい大きな魅力といえよう。

したがって、「水面夜景」の演出は、商圏とは異なる景観という意味においてウォーターフロントの空間的価値が高められるものと認識する。

ウォーターフロントにおける「水面夜景」の研究として、光源の種類やその輪郭の明瞭具合を分類したもの^[1]や、ネオン広告物の水面への映り込みの再現方法を検討したもの^[2]はあるが、水面に映る夜景の価値を構図的に分析し、その特徴を示したものはみられない。

そこで、本研究では水辺空間の審美性や光の価値が魅力的に描かれていると考えられる風景画として、小林清親および川瀬巴水の風景絵画を対象に、「水面夜景」の構図分析を通じて、その魅力的特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 分析方法—本研究で対象とする風景画家である小林清親(1847-1915)は、さまざまな光の情景をモチーフとする「光線画」の手法を生み出し普及させた第一人者であり、川瀬巴水(1883-1957)は「昭和の広重」と称され夜の水面を含む多様な浮世絵版画を近代で復興すべく活躍した人物である。本稿では、小林清親の「謎解き浮世絵叢書 東京名所図」^{[3]**1}と川瀬巴水の「木版画集」^{[4]**2}の全 320 点のうち、夜景かつ水面が描かれている絵画全 44 点を分析対象とした(表 1)。その結果、対象絵画

(44 点)を「(i)描かれている光の構成要素」(A. 自然光, B. 人工光)と「(ii)光以外の構成要素」(C. 自然物, D. 人工物, E. 人物)に分類し、それぞれについて、水面に映し出されている該当要素(表中●印)と水面を除く絵画中に描かれている該当要素(表中○印)および各要素の合計数を示したものが表 2 である。

表 1 時間帯別に集計した水面描写の有無数 [単位: 点]

画家	時間帯 水面描写	朝夕		昼		夜		合計
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
小林清親		5	0	5	6	8	6	30
川瀬巴水		64	13	102	49	36	26	290
合計		69	13	107	55	44	32	320

3. 結果および考察—表 2 より水面に映し出されている該当要素(表中●印)の合計をみると、最も多いのは「②月光」であり、続いて「⑤室内灯」「④室外灯」であった。その構図的特徴は、柔らかな自然光で水面を闇夜に浮かび上がらせ、その水面上に一筋の生活光が強調されることで、自然光と人工光の対比が表現されている(図 1, 2)。

次に「(ii)光以外の構成要素」について多いものを見ると、自然物を除いた「⑨建物」「⑩橋」「⑪舟」「⑫護岸」という人工物と「E. 人物」が全体の 3 割程度で水面に描かれていた。この特徴として、「人物」が水面に描写されたものは、上述した 4 つの人工物のいずれかが同時に含まれるものが絵画番号 3 を除くすべてであった。これより、光以外の「水面夜景」としては、構造物や舟と人物が関わる生活景が水面に映しだされることに価値が生み出されているといえよう(図 3)。

さらに、対象絵画に描かれた要素のなかで、水面上に出現しやすい要素を捉えるために、水面以外に描かれた要素と水面上に描かれる要素の描写比率(表中●/○の欄)をみると、最も多かった要素は「②月光」で、続いて「⑤室内灯」「④室外灯」であった。この「室内灯」の映り込みが多い点に着目すると、水面に映る光は種

1: 日大理工・院・不動産 2: 日大理工・教員・まち 3: 日大理工・学部・交通

表 2 対象絵図に描かれている構成要素の分類および該当数

[凡例] ○印：水面を除くすべての構成要素/●印：水面に反射している構成要素

画家	絵図番号	絵図名	(i)描かれている光の構成要素					(ii)光以外の構成要素								
			A.自然光			B.人工光		C.自然物			D.人工物				E.人物	
			①月	②月光	③星	④室外灯	⑤室内灯	⑥山	⑦樹木	⑧雲	⑨建物	⑩橋	⑪舟	⑫護岸		
小林清親	1	今戸橋茶亭の月夜	○	○●		○●	○●			○		○●	○●		○●	○●
	2	今戸夏月	○	○●			○			○●						○
	3	東京小梅曳舟夜図	○	○●	○		○●			○		○				○●
	4	御膳橋之図				○			○	○	○	○●				○
	5	五本松雨月	○	○●		○	○●		○	○	○		○●		○	○
	6	大川岸一之橋遠景	○●	○●		○●	○●		○	○	○●	○●		○●	○●	○
	7	御茶ノ水螢		○			○●		○●			○		○●		○●
	8	高輪牛町朧月景		○●		○	○●	○	○			○		○●		○
川瀬巴水	9	陸奥三島川	○	○●					○		○					○
	10	金沢ながれのくるわ	○	○●		○●	○		○		○				○	○
	11	寺泊の夜雨					○		○	○	○					○
	12	新潟五彩堀					○●				○●	○			○	○
	13	小千谷旭橋	○●	○●				○				○●	○●	○●	○	○●
	14	月明の加茂湖		○●			○●	○		○	○			○●		
	15	佐渡夷港				○●	○●	○	○●	○	○●	○●			○●	○●
	16	おぼろ夜(宮島)				○		○	○							
	17	秋田八郎潟		○●	○			○	○		○					
	18	但馬城崎				○●	○	○		○	○●	○●	○●	○		○
	19	出雲日乃御碕		○●					○	○						
	20	出雲松江	○	○●			○●		○●	○	○●			○●	○●	○●
	21	星月夜(宮島)		○●	○	○		○	○		○					
	22	尾州亀崎		○●		○	○	○	○		○	○●	○		○●	○
	23	夜の新川			○	○					○				○●	○●
	24	桜田門		○●		○●			○●	○	○●				○●	○●
	25	滝之川	○	○●		○●	○●		○		○	○●			○	○
	26	荒川の月(赤羽)	○●	○●			○●	○●	○●	○	○		○●	○●	○●	○●
	27	明石町の雨後				○●	○●			○	○			○●		○●
	28	大森海岸		○●			○●		○	○	○	○●	○●	○	○	○●
	29	鹿児島甲突川	○	○●		○		○	○	○		○●			○	○
	30	熊本春日町		○●			○●	○	○●		○●				○●	
	31	唐津(米倉跡)		○●	○				○		○				○	
	32	月夜の富士(河合橋)		○●			○	○●	○	○	○	○●		○●	○●	○
	33	遠州新居町	○●	○●			○●	○●	○	○	○●		○●	○●	○●	○
	34	名古屋堀川		○●	○		○●				○			○	○●	
	35	小樽の波止場		○●		○●				○		○●	○●			○
	36	大鰐温泉(青森県)		○●			○●		○●	○●	○●	○●			○●	○●
	37	松島双子島	○●	○●				○	○●	○				○●		○●
	38	尼崎大物	○●	○●		○●					○●				○●	○●
	39	雪の向島					○●			○	○●			○●		○●
	40	二重橋		○●		○●	○		○●	○	○	○●			○●	
	41	水戸瀬沼広浦	○●	○●				○	○		○					
	42	牛堀					○●		○●	○	○●			○●	○	○●
	43	日光湯元温泉		○●		○●	○●	○	○		○●				○	
	44	月の松島	○●	○●					○●	○						
○合計[点(%)]		44(100.0)	17(38.6)	34(77.3)	6(13.6)	21(47.7)	27(61.4)	17(38.6)	35(79.5)	24(54.5)	33(75.0)	16(36.4)	19(43.2)	26(59.1)	29(65.9)	
●合計[点(%)]		44(100.0)	8(18.2)	33(75.0)	0(0.0)	13(29.5)	20(45.5)	1(2.3)	12(27.3)	0(0.0)	14(31.8)	14(31.8)	15(34.1)	15(34.1)	15(34.1)	
●/○ (%)		-	47.1	97.1	0.0	61.9	74.1	5.9	34.3	0.0	42.4	87.5	78.9	57.7	51.7	

【主な分類定義】
 ①月：絵図の空や水面に描写された月そのもの。または、水面に映る月。後者の場合、波のゆらぎにより乱れていても、おおまかな輪郭が確認できるものとした。
 ②月光：空や水面が柔らかに明るく、またそれが月光によるものであると判断できるもの。
 ④室外灯：ガス灯・玄関灯・提灯などの建物の外側にある光。
 ⑤室内灯：建築物の窓等から漏れる室内の明かり。
 ⑨建物：家屋や蔵、料亭などの建築物。
 ⑫護岸：海岸や掘割等の岸部分が護岸や盛土により補強されているもの。

類を選ばないわけではなく、生活感が伝わるような室内灯の水面反射が重要といえそうである(図4)。

4. まとめ

本稿では対象絵図(44点)に描かれた要素と水面に映し出された要素の関係について、その特徴の分析を行った。

その結果、「水面夜景」の魅力とは「月光」により水面が広く照らされ、「室内灯」「室外灯」による一筋の強調された生活光が加わることによって自然光と人工光との対比が生まれること、同時に陸上での生活感が水面上に映し出されるという点に価値があることを捉えた。

特に、水面上に出現しやすい構成要素として、建物や橋、舟といった人工物と人物との関わりを通して、生活感や人の営みが強調された生活景に価値が見出されていることが明らかになった。

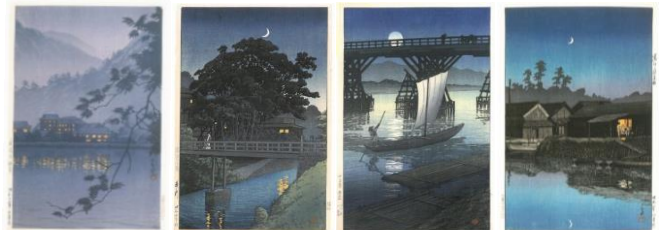


図1[43.日光湯元温泉] 図2[25.滝之川] 図3[13.小千谷旭橋] 図4[33.遠州新居町]

5. 注釈

- ※1 上野・浅草・両国など明治期の東京を描いた傑作とされる30点が掲載され、現在の写真と地図・古地図を併載し、郷土史的解説も付された書である。
- ※2 大正・昭和期の「新版画」を代表する画家・川瀬巴水の「旅みやげ」「日本風景撰集」などのシリーズ作を中心に約300点がオールカラーで掲載された木版画集である。

6. 参考文献

- [1] 西林昌彰：「ウォーターフロント夜景の特長とその評価に関する研究」, 土木学会海洋開発論文集Vol.21, p199-203, 2005
- [2] 布川茂樹 田中一成ら：「水面に映り込む光環境の把握」, 土木学会景観・デザイン研究講演集No.3, p22-27, 2007
- [3] 小林清親：「謎解き浮世絵叢書 東京名所図」, 二玄社, 2012
- [4] 川瀬巴水：「木版画集」, 阿部出版, 2009